補聴器購入補助の実施は可能
中林議員に広瀬市長が答弁

一般質問する中林かずえ市議

軽度難聴で認知症になるリスクは通常の2倍、高度難聴で5倍に

9月市議会で中林議員は、補聴器購入補助について質問しました。

◇　◇

★(質問)加齢性難聴は、音を感じ取る内耳や聴神経、脳などの障害により、音が小さく聞こえたり、言葉が聞き取りにくくなる疾患です。

難聴が、認知機能の低下や認知症のリスクを高めることは明らかであり、軽度難聴で認知症になるリスクは、通常の人の2倍、中等度で3倍、高度難聴で5倍にもなります。

軽度、中等度の耳に、毎日5時間補聴器を使用すると、6か月後に脳の活性の仕方が、難聴でない人と、同じ状態に戻った研究結果があります。

神経細胞は「可塑(かそ)性」があり、高齢になっても、補聴器を毎日使うことで、神経細胞同士の結びつきが変化しています。

従って、できるだけ早く、補聴器をつければ、人生で長くきこえを楽しむことが可能ですが、日本では、難聴の自覚のある人のうち、補聴器を使用している人は、わずか16％と、先進国では大きく遅れています。

その原因は、補聴器が高額で、公的補助が乏しく、購入できないからです。

補聴器は1日も早くつけた方が良い

★(質問) 802020運動のように、8030運動も国が推進しない中で、医師からは、補聴器の装着を診断されても、特別な経済的な理由で、補聴器を購入できない市民が、みすみす、難聴の進行と認知症リスクが高まるのを待つのではなく、福祉的な事業として、実施することは、十分に市民の理解を得られると考えるがどうですか。

●(答弁) 特別な経済的事情がある市民への補聴器購入補助につきましては、経済的な理由から補聴器を購入できず、そのため日常生活に支障をきたしている方がいることを踏まえ、本市の補助に対する考え方に基づき、対象となる方の状況や他市の取組等を確認し、今後、そのあり方について検討します。

購入をあきらめている人が希望が持てる補助額に

★★(再質問) 市長にお聞きします。経済的な理由で補聴器の購入が困難な特別な事業の方への補助は可能であるということでしょうか。

●(市長答弁) 加齢による難聴は、広く起こりうることだと思うが、医師の診断を受けているにもかかわらず、経済的な事情で購入できないということであれば、市が基準としている、特別な事情によって通常の生活が送ることができないという基準に適合すると思います。そのことを踏まえて担当部で検討を進めるということだと思います。

★★(再質問) 経済的な理由で医師が必要と診断した方が購入できない場合は、購入補助の対象になると、補聴器購入補助の実施は、可能ということですね。

●●(市長再答弁) その通りです。

★(主張) 率直に嬉しいご答弁です。

補聴器は1日も早くつけた方が良いということは明らかですが、一番安くても本体で6万円近くするので、購入は難しいとあきらめている方が希望が持てるような補助額にしてほしいと思います。

また、補聴器購入補助制度の実施を求めて、署名活動をされている「寝屋川きこえの会」の要望では、聴力検査の実施や相談窓口の設置が重要だということですので、申し上げておきます。

寝屋川民報

発行
日本共産党
寝屋川議員団
072-824-1181
FAX:824-7760
No.3617

寝屋川市会議員
中林かずえ
宝町4－33
090-3944-8385

寝屋川市会議員
松尾信次
下木田町12-6
090-3056-9924

寝屋川市会議員
西田まさみ
石津中町30－3
090-9713-3588

前寝屋川市会議員
太田とおる
高柳2－49－2
080-3818-9722

池田秦線交差点前の自転車レーン

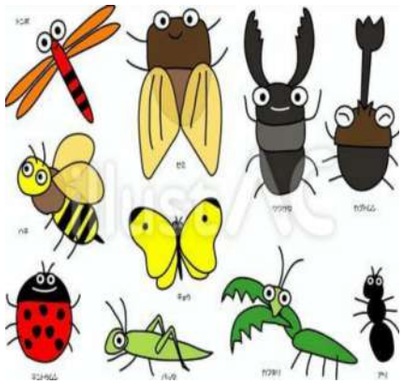
「高齢者は自転車レーン怖い」 現行では歩道の自転車通行は可

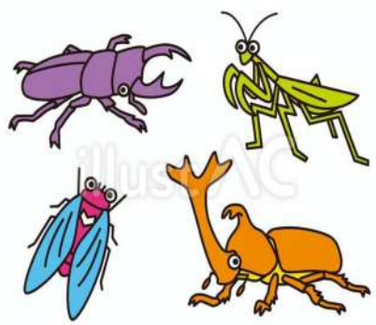
開発者に確

質問中の中林かずえ市議

可動式ホームドア設置

京阪電鉄株式会社において、京阪寝屋川市駅に可動式ホームが、２０２７年３月頃に、使用開始になります。(月刊誌「Ｋ　ＰＲＥＳＳ」くらしのなかの京阪(９月号)に掲載あり





聴覚障害の等級と障害の程度(日本)

等級	障害程度
2	両耳の聴力レベルが100デシベル以上
3	両耳の聴力レベルが90デシベル以上
4	①両耳の聴力レベルが80デシベル以上 ②両耳による普通話声の最良の語音明瞭度が50パーセント以下のもの
6	①両耳の聴力レベルが70dB以上 ②一耳の聴力レベルが90dB以上、他耳の聴力レベルが50dB以上

市政報告懇談会のお知らせ

日時　1月12日(月)午後2時
場所　日本共産党寝屋川市委員会2階

国民健康保険料の減免について

以下の場合に減免申請が可能です。減免申請の時期によって減免対象が減少します。
(6月末なら年額対象、7月末は11か月分が対象に)

●生活確保困難者の理由等に係る軽減(届出必要)
●非自発的失業者の保険料負担軽減(届出必要)
●後期高齢者医療制度への移行による保険料の軽減・減免
●所得の減少による減免(申請必要) 6月から年度末(3月末)
世帯全員の所得見込額の合計が前年比3割以上減少で支払い困難な場合

申請窓口	必要書類等は別途ご案内
退職・廃業した	退職日記載の雇用保険受給資格者証、退職証明書、離職票、廃業届出書
給与収入の減少	給与明細書(所得減少前と減少後3か月分など)
事業収入の減少	見込みで作成した青色申告決算書、収支内訳書
不動産・配当収入の減少	見込みで作成した収支内訳書・配当金支払通知書など

●その他の理由による減免(申請必要)
1 震災、風水害、火災などにより財産等の損害を受けた方

グループホーム

木屋地区の農地（淀川方面に向けた写真）

例	聴力レベル(dB)の聞こえの程度	難聴の区分(WHO※)	難聴の区分(聴覚医学会)	聴覚障害等級
0		普通の会話は問題ない		
20	木の葉のすれ合う音	小さな声が聞きづらい テレビの音を大きくする	軽度 (20dB～34dB)	軽度難聴 (25dB～39dB)	
30	図書館での執筆音			
40	図書館内の音		中等度 (35dB～49dB)	中等度難聴 (40dB～69dB)	
50	静かな事務所の中	普通の会話が聞きづらい	やや高度 (50dB～64dB)		
60	普通の会話、走行中の自動車内		高度 (65dB～79dB)	高度難聴 (70dB～89dB)	6級
70	掃除機の音				
80	パチンコ屋店内、走行中の電車内	普通の会話が聞き取れない 騒音しか聞こえない	重度 (80dB～94dB)	重度難聴 (90dB～)	4級
90	近くの犬の鳴き声、カラオケ店内		完全な聴覚喪失 (95dB～)		3級
100	地下鉄構内	耳元で話されても聞き取れない 日常音はほとんど聞こえない			2級
110	電車の通過するガード下				
120	近くの落雷、飛行機のエンジン近く				

※ World Report on Hearing (WHO 2021)

- 音圧レベル(dBSPL)…音の大きさを表す。補聴器で音えは出力能力。
- 聴力レベル(dBHL)…人がどれくらいの音で聞き取れるかを表す。

等級	障害程度
2	両耳の聴力レベルが100デシベル以上
3	両耳の聴力レベルが90デシベル以上
4	①両耳の聴力レベルが80デシベル以上 ②両耳による普通話声の最良の語音明瞭度が50パーセント以下のもの
6	①両耳の聴力レベルが70dB以上 ②一耳の聴力レベルが90dB以上、他耳の聴力レベルが50dB以上

日本共産党寝屋川市会議員団　〒572-0855 寝屋川市本町1番1号　寝屋川市政について、ご意見ご要望をお寄せ下さい。Eメール n-jcp@jcp-neyagawa.jp

千里丘寝屋川線の沿道
住環境を守るのは市の役割

第9中学校の遮音壁

正式アセスなくとも環境予想できるはず

中林議員は、千里丘寝屋川線について質問。

◇ ◇

都市計画道路・千里丘寝屋川線は、高柳2丁目から萱島駅までの全長1．38ｋｍ、幅員32ｍ、設計速度60キロ、4車線で、歩道3．5ｍ、植樹帯2ｍ、自転車専用道は2．5ｍです。

6年後の2032年（令和14年）3月開通予定で、今年度は、用地測量、物件調査、買収価格と立ち退き補償額の算定と用地買収の予定で高柳2丁目で用地買収が始まっている。

★（質問）第5中学校は学校前に道路が開通するため通学や教育環境の問題、神田小学校区の上神田2丁目の小学生が、道路超えの通学になる問題、神田保育園の保育環境と通園に関する問題についてもお聞きする。

●（答弁） 周辺の教育・保育施設への影響と課題については、通学・通園への安全対策や防音対策等が考えられ、今後、具体的な協議が進められると認識している。

交通量が増えれば騒音なども大きくなる

★★（再質問） 現在の木屋門真線の1日あたりの交通量は約8200台で、千里丘寝屋川線は2万8800台であるので3．5倍になる。交通量が増えれば、騒音、振動、排ガス量も大きくなると考える。しかし、工事区間が1．4キロｍ弱のため府環境アセスの対象外であり、予測値も評価もないという答弁である。

しかし、この道路は、茨木市から関西空港方面につながる延長70ｋｍの広域幹線道路で、沿道の環境について府が何も想定していないとは到底思えない。正式な環境アセスはしていなくても府なりの評価は想定できると考える。道路沿道に住むことになる住民から、「環境がどう変わるのか知りたい」と要望されれば、市として大阪府に明らかにするよう要望すべき。

●●（再答弁） 環境影響評価は府で判断されるが、市として、住民の要望について府に伝えていくとともに、丁寧な対応を要望していく。

現状の環境を維持する対策を

★（質問） 用地買収や、転居問題などで解決が難しい可能性の一人暮らし高齢者に対し、大阪府や市はどのような支援ができるのか聞く。

●●（再答弁） 市として、市民の要望については、府と連携しながら対応していきたいと思っている。

★★（再質問） 大阪府が予想することは可能である。その内容によっては、第9中学校に設置の透明な遮音壁や、住宅前の遮音壁兼目隠し塀などの要望も出てくると考える。

環境対策は、単に環境基準を超えているかいないかではなく、現在の住環境を可能な限り維持する、そのためにできる限りの対策をおこなうべきと考える。

道路沿道の遮音壁

高齢地権者への福祉的支援を

●（答弁） 大阪府は、公共補償基準等に基づき、用地補償費等を算定したうえで説明し、権利者との合意事項により金銭補償を行うものであるため、支援については対象外とされているが、市としては、市民からの問い合わせ等について、大阪府に対し、権利者へ丁寧な説明を行い、理解を得ながら進められるよう対応していく。

★（主張） 用地買収が進んで、課題が見えてきます。例えば、32ｍを横断する道路の位置、抜け道問題、地域分断への対応などで地域から要望がでてきたら、大阪府任せにせずに市が住環境を守る立場で対応することを求める。

議員日誌

中林 かずえ

9月19日、松尾事務所で、21日は上神田2丁目で「9月議会報告と暮らし何でも相談会」を開催しました。

6月に川口市で発生した「ケアマネジャー殺害事件への対応」について、9月議会でとり上げたことから、改めて介護現場で働く皆さんのご苦労がわかりました。

介護の現場からも参加いただき、ご意見もうかがうことができて良かったです。

ケアマネジャーさんやヘルパーさんが安心して訪問できてこそ、市民の介護サービスが成り立ちます。

引き続いてケア労働の皆さんの処遇改善を求めたいと思います。

また、家の前に千里丘寝屋川線ができるという方や立ち退きになる方、抜け道にならないようにしてほしいという方からの意見もありました。

皆さんの貴重なご意見をお聞きすることが私の力になると改めて感じました。